

議会報告会報告書

開催日時	平成31年4月16日(火)午後7時00分～8時45分	
開催場所	第一公民館	
出席議員	堀端 脩、殿村 峰代、田中 正浩、米倉 芳周、中村 良子 山本 芳敬、山本 節	
	司会進行者	殿村 峰代
	報告者	米倉 芳周、山本 節、山本 芳敬、堀端 脩 中村 良子
	記録者	米倉 芳周
参加人数	19名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 中島清晴様

平成31年4月17日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第1班

代表者 堀端 脩

【第1部の主な質疑応答・意見等】

- 問** 今年度の予算総額が増えている。人口が減っているにも関わらず、なぜ、増えるのか。また、市債は減っているのか、増えているのか、今回の説明ではわからない。
- 答** 平成 29、30、31 年度の 3 か年を集中投資期間とし、教育関連費を中心に市債費が増加するため、財政が健全なうちに市債の短期償還を行うことで、公債費の歳出が 44 億円増えている要因から予算総額が増えているということである。事業費は今後、減少していく予定である。市債については、竹上市政の公約で任期中は借金を増やさないということに推移している。
- 問** 予算が増えることと公債費が増加することの判断基準は。
- 答** 合併特例事業債は短期償還ができる。短期償還を行うことにより、その 70%が交付税として算入されることから、交付税も増額となっており、今回の措置となった。結果、公債費の計上が増加し、予算総額が増えることになったが、財政の健全化という観点からもこの予算措置は正しいと考える。
- 問** 働き方改革についての市の対応は。
- 答** この問題については、あまり進んでいない。職員と非正規職員との賃金格差は以前より改善されたが、課題は山積していると考ええる。
- 問** 人件費を正規職員の総額と非正規の職員人件費の計上は別との事だが、人口減少の中、当然、人件費総額も削減していくべきである。今後、これらは同一と考え、全体で捉えて減らすべきではないか。
- 答** 人件費として、全ての人件費を計上して、判断すべきとのご指摘に対し、貴重なご意見として、今後、検討する。
- 問** 市の条例で位置づけされた住民協議会のあるべき姿というものを、今後示していただきたい。自治会連合会との差、メリットとは何かということである。
- 答** 条例の制定から 3 年を越える議論を自治会連合会、住民協議会の当人同士が重ねてきた。組織の融合、組織の一本化、予算の一元化に向けてそろそろ結論が出ると考える。
- 問** 下水道事業について、当初計画は平成 40 年までに下水道事業費 2,000 億円と聞いた。その後の経緯は。
- 答** 今回、計画見直しが行われたが、これは人口減少に伴うものと、設備計画の財源見直しによるものである。これにより、950 ヘクタールの地域が除外され、総額 520 億円の経費削減がなされた。しかし、場合により、今後計画地域の再検討もある。

問 保育園待機児童対策で、現在の待機児童は。

答 平成 30 年 10 月 1 日現在で、147 名の待機児童が発生していて、今年度 4 月 1 日時点では、待機児童は 0 である。しかし、新たに発生した 0 歳児等の待機児童はある。31 年度においては、新たに定員が 220 名増員される増設等が行われる。

第 2 部【住みよいまちづくりについての主な質疑・意見】

問 社会福祉法人に勤めている。障がい者支援事業の B 型事業所を運営しているが、松阪市障がい者福祉課は、障がい者支援のための情報提供がされていない。他県、他市では障がい者へ積極的に事業所の情報提供等がなされている現状において、市の対応は非協力的である。

答 情報提供という点において、市からみると個人情報保護法の問題があると考えている。一方では事業所からみると他市との情報交換はされているのに松阪市はなぜできないのかということであると考え。この問題点において、今後、市担当部局と各事業所との協議を市に提案した経緯がある。

問 障がいの子どもをもった保護者が最も要望の強いアシスタント派遣について、小学生の高学年になると障がい者施設へ行くことを促す現状において、やはり親としては普通教育施設での教育を願う。アシスタントの設置に 1 億円の予算が組まれているが、もう少し個々に則した対応ができないものか。全然、細かいフォローができていないのが実情である。アシスタントに対し、保護者の不満が多い現状において、双方の話し合いの場を設けるなどの工夫がほしい。「子育て一番」は風呂敷を拵げすぎではないか。アシスタントのレベルアップを望む。

答 「保護者の思い」を伝えていく機会を設けることが必要である。担当部局に伝える。それと関連して、「インクルーシブ教育」というその人にあつた対応による「合理的配慮」という考え方というものがある。その方法も考慮すべきと考える。

意見 交通安全対策で、横断歩道の白線が消えているところが多々ある。対策を。

意見 ゾーン 30 の推進を願う。

意見 一方通行の逆走が目立つ。逆走防止の対策を願う。

意見 下水道事業の抜本的な計画の見直しと事業費の更なる削減により利用料金の値下げを願う。津市と比べても松阪市の下水道利用料金は極めて高額である。

意見 松阪新電力会社が創立され、事業展開していることに対して、市民は、新会社のメリットが分からない。もっと市民にメリットが分かるような説明の工夫を。

意見 市民病院と済生会病院との統合について、病床数の削減による理由しか語られていないように思われる。防災・減災の観点からも議論を。河川津波が発生した場合、済生会病院は浸水する可能性が非常に高いが、市民病院の位置では、浸水の可能性は低い。

是非、市民病院の施設は残すべきと考える。

意見 新大橋付近の交差点における交通渋滞の早期解決を願う。